



経済情報コーナー

韓国観光プロモーションを実施

福島県観光交流局観光交流課副主査 佐藤 望美

■ 目的

福島県は、これまで福島空港と韓国の仁川空港を結ぶ定期便が週3便就航しており、ソウルから毎年6万人を超える観光客が、ゴルフやスキーで訪れておりました。

しかしながら、2011年3月11日の東日本大震災による地震や津波に加え、東京電力福島第一原子力発電所の事故で甚大な被害を受け、現在も約16万人の県民が県内外で避難生活を余儀なくされています。

また、東日本大震災以降、風評被害の影響により本県への韓国人観光客は前年比で9割以上減少するとともに福島空港ソウル路線は現在休止したままなど、その回復と再開は喫緊の課題となっております。

このような状況の中、本県に対する風評の払拭と韓国人観光客の再誘致ならびに福島空港ソウル路線の再開に向けた理解促進を目的として、韓国国内における観光プロモーションを実施することとなりました。

■ 事業概要

2012年10月2日～6日の期間に韓国で次のとおり観光プロモーションを実施しました。

(1) 「日韓交流おまつり2012 in Seoul」への参加

2011年度は、東日本大震災に関する世界各地からの支援、とりわけ東アジア諸国の皆さまからの御支援に対して感謝の意を示し、さらには復興への思いをアピールするために、「日韓交流おまつり in 2011」に参加しましたが、2012年度は、県内のほとんどの地域で通常どおりの生活や経済活動が行われ、県民は元気を取り戻しつつあること、放射線に関する正しい情報を韓国の皆さまに伝えることを目的に参加しました。

2012年の日韓交流おまつりはCOEX展示会場で行われ、日本の全国各地から参加者が集まるとともに、

約4万人の方が会場を訪れました。福島県のブースにもたくさんのお客様が足を運んでくださり、起き上がり小法師の絵付け体験やWiiを使ったゴルフ体験、フラガールとの写真撮影などのイベントには大人から子どもまで幅広い年齢層の方々が参加し、順番待ちの長い列ができるほど大盛況でした。



さらに、イベント

起き上がり小法師の絵付け体験

に参加していただいたお客様240人にアンケートを実施したところ、8割の方に「福島県を訪れたい」との回答を寄せていただきました。

(2) 旅行会社等への訪問活動

日韓交流おまつりの翌日は、県内の観光施設関係者と一緒に、震災前、積極的に福島県へ送客して下さっていた旅行会社や政府関係機関等を訪問し、福島県の観光と放射線の問題に関する現状を説明しました。旅行会社の反応はさまざまで、「どれだけ旅行会社が大丈夫だと言っても信用されない」、「福島県の旅行商品は売れない」といった厳しい声が聞かれた所もあれば、「今すぐには難しいかもしれないが、福島県に行きたいという人はいるだろう」、「福島県にまた送客したい」という前向きなお話をいただいた所もありました。

(3) 「観光キャラバン・商談会 in ソウル」への参加

観光庁と日本政府観光局(JNTO)の主催により、震災後の外国人旅行者の落ち込みが大きい東北・北関東のインバウンドを回復させるため、ソウルロッテホテルにて商談会が実施され、福島県も観光施設関係者2社とともに参加しました。

さらに、2012年7月の渡航制限緩和以降も依然として「本県全体が原子力災害で深刻な被害を受けて

おり、通常の生活が行われていない」など誤った報道がされているという状況を改善するため、旅行会社とマスコミ関係者を対象とした放射線の専門家によるセミナーを、観光庁の商談会とあわせて実施することになりました。

セミナーでは、長崎大学教授で福島県放射線健康リスク管理アドバイザーである高村昇教授を講師としてお招きし、チェルノブイリと福島県の原因事故を比較しながら講演を行っていただき



高村教授(右)によるセミナー

ました。放射線に関する基本的な知識や、福島第一原子力発電所の事故後、徹底した内部被曝^{ひばく}への対策がなされ、基準値を超えた放射性物質が含まれた食品は市場に出回らない体制が整えられていることなど、福島県が内部被曝に関するリスクを低減させるための体制をどのように整えているか、専門的な立場



旅行会社との商談会

から分かりやすく説明していただきました。会場には40人ほどの旅行会社やマスコミ関係者らが集まり、皆熱心に耳を

傾け、商談会終了後の交流会では多くの方が高村教授に質問をしていました。

今回、専門家による放射線に関するセミナーを現地で行ったことは、韓国の方に福島県のことを知ってもらい、放射線について学んでいただくいい機会になったと思います。

(4) ゴルフ場・スキー場などの視察

韓国で盛んなトレッキング、ゴルフ、スキーに関して、現地がどのような状況なのかを知り、今後の誘客策の検討につなげるために、登山道やゴルフ場・スキー場等を視察しました。

まず、国立公園北韓山登山口を見学しましたが、平日にもかかわらず、トレッキングの服装をした人で街は大変賑わっており、韓国内での健康志向の高まりを知るとともに、いかにトレッキングが日常に

浸透しているかを目の当たりにしました。

次に、南ソウルカントリークラブを視察しましたが、こちらも平日にかかわらず多くの人で賑わっており、相変わらず韓国でのゴルフ人気が高いことを実感しました。

スキー場は京畿道にある「ベアーズタウンリゾート」を訪れ、関係者と意見交換を行いました。シーズン中はナイター営業が行われ、仕事帰りのスキー客やスノーボーダーが多く訪れるということでした。人工降雪スキー場ですが、スキー場の周辺にはコンドミニアムが建ち並び、初心者やファミリーにとって十分楽しめる施設を備えていました。

■ ■ 今後の展望

震災等の影響により、福島空港の国際定期路線が運休している中、2012年の12月に福島空港を利用したソウルチャーター便が震災後初めて運航され、韓国から団体ツアー客が福島県を訪れました。また、2013年の2月のチャーター便では、韓国ロッテグループ3社の各社長や女優のチェ・ジウさんのほか、一般のスキー客が訪れ、子ども連れのファミリーがスキーを楽しむ姿も見られました。このように、少しずつではありますが、海外からの観光客誘致に明るい光が見えてきています。

震災前の状況に戻るには、まだまだ時間がかかると思われませんが、今後も、海外からのお客様が安心して観光できるように、また国に戻られた際、周りの方々に福島県への旅行は問題ないと伝えていただけるような環境を整えていきたいと思っています。

今年のNHK大河ドラマでは福島県が舞台の「八重の桜」が放送されており、主人公「新島八重」のふるさととして全国から注目を浴びています。こうした旬の話題とともに、福島県の観光の魅力を海外の皆さんに十分にお伝えできるよう、今後の観光プロモーションに力を入れ、国際定期便の再開、本格的なツアー再開へとつなげていきたいと考えております。

最後になりましたが、当該事業実施について、(財)自治体国際化協会および同協会のソウル事務所に多大なる御支援と御協力をいただきました。心より、感謝申し上げます。